



▲ 筆者と衛星模型

スカパーJSAT株式会社 技術運用本部 サービス運用部 鈴木未来

私 が旧JSATへ入社した2008年は、忘れることのできない激動の年となりました。というのも4月に入社し、10月にはJSAT、宇宙通信、スカパーの3社が合併し、衛星保有数13機というアジア最大の衛星通信会社に発展しました。

学生時代にも様々な合併のニュースを聞く度に日々変化する社会に驚き、自分とは遠いものであると感じていましたが、自分の入社した会社が合併すると聞いた時はとても衝撃的でした。当時は入社したばかりで何もわからないながらも、上司や先輩方の仕事ぶりから、実際に統合することの難しさとともに、統合による効果も感じ取ることができました。

新会社は大きくスカパー、スカパーHD、スカパーe2を中心とする有料多チャンネル事業と衛星事業に分かれており、私は衛星事業に携わっています。衛星通信の魅力を生かした多種多様なサービスがあり、災害時でも信頼性の高い通信を確保できるExBirdサービス始めとするVSATサービス、航海中の船舶でインターネット接続を実現できるOceanBBサービス、映像だけでなくデータ情報等の多彩なコンテンツを一斉に多拠点に配信できるSky-Accessサービスなどがあり、人々の暮らしを安全に便利に、そして豊かにする為のサービスを提供しています。

スカパーJSATへの入社へ至った経緯を振り返ると、高校生の時に流星群を見た思い出に辿り着きます。小さい頃から流星群到来の際には家族と共に栃木県の実家の庭で見るのが習慣となっていました。理科の先生の計らいで高校の屋上という星の観測には絶好の場所で流星群を観測する機会に恵まれました。

1999年はしし座流星群の大出現が予想され世界中が注目をしていた年であり、期待を胸に屋上への階段を駆け上がりました。屋上に寝転がると目の前には大きな暗闇が広がり、その中を時折駆け巡る流れ星はあまりに美しく、11月の寒さも忘れて夢中で流れ星を目で追いかけたことを今でも鮮明に覚えています。そして夜空を何時間も見つめるうちに、星々はいつどのように誕生し、何故あんなに美しく輝いているのか、ふと考えるようになりました。

宇宙の奥深さを肌で感じ、宇宙の神秘を解明したいという目標ができた私は、自分の道を進み始めました。



▲ 星をよく一緒に見ていた三姉妹

長野県の大学に進学した私は、宇宙を研究する上での基礎となる物理学の勉強に励んだ後、地球にも常時飛来している宇宙線の起源の解明に繋がる「宇宙線の太陽変動の研究」に取り組みました。長野県は自然が豊かであり、勉強や研究の合間にはよく山に星を見に出掛けていたものです。研究を進めるうちにより深く研究したいと考えるようになった私は、観測機器の開発から観測、研究に至るまでの一連の研究に力を入れ、その環境が整っている名古屋の大学院へ進学を決め、赤外線天文学の研究室へ所属しました。

赤外線観測の歴史はまだ浅く、1800年、イギリスの天文学者W.Herschelが赤外線を発見したもののその頃は感度の高い検出器がなく、その後100年以上本格的な赤外線観測は行われておりませんでした。1900年代前半に入っても、いくつかの例を除いて可視光での天体観測が中心

宇宙の奥深さを肌で感じ、宇宙の神秘を解明したいという目標ができた私は、自分の道を進み始めました。

でありましたが、1900年代後半に入ると従来よりも2、3桁高い感度を持つ検出器が開発されたため、赤外線観測という新たなる視点で天文学の扉を開くことができるようになりました。

我々の研究室では赤外線望遠鏡の開発に取り組み、星の誕生や銀河の進化を探る研究を行っていました。私は主に開発に携わっており、高空間分解能を実現する為の光学系の支持機構や仰角駆動機構を担当し、まずは設計から始め、自分で製作できるものに関してはアルミニウムを旋盤、フライス盤で削り、ボール盤でネジ穴を切り、組み立て、評価試験を実施しました。失敗を繰り返しながらも研究室の皆で地道な努力を重ね、1つ1つが完成する度に研究室の皆で喜びを噛み締めたことを覚えています。赤外線望遠鏡の開発は後輩へと引き継がれ、もう少しで日の目を見るところまできており、吉報を心待ちにしているところです。

大学院1年の冬、このまま好きな宇宙を研究し続けたい気持ちもありましたが、次のステップとして、宇宙というフィールドで新しいことにも挑戦したいという気持ちが大きくなり、就職を決断しました。就職サイトで宇宙に関わる企業を探していた時に出会った会社が旧JSATであり、会社説明会では若手社員でありながらも生き生きと仕事をしている先輩社員の姿と衛星通信という自分の知らない面白いサービス内容に魅力を感じました。想いの長けを面接官にぶつけ入社が決まった時は、飛び上がる程嬉しかったことを覚えています。

同じ宇宙というフィールドとは言えども、衛星通信の仕事は全くの未知の世界でした。覚えることの多さに始めは戸惑うことばかりであり、今までたくさんの迷惑を掛けてしまいましたが、周りの上司、先輩方のおかげで、衛星通信サービスをお客様に喜んで利用して頂く為には何が大切で、何をすべきなのかが少しずつわかってきました。

私が所属するサービス運用部の仕事は、安定的により良いサービスを24時間365日提供する仕事であり、具体的には運用方法、ルールの策定や改善、運用の窓



▲ YSCC同期メンバーとアンテナ



▲ 先輩とともにアンテナ修理

口、お客様からの運用面での要望の調整、障害対応等を実施しております。設備を相手にしており、その設備を人が運用している以上、現場には何が起こるかわからない緊張感がありますが、運用のノウハウを蓄積し、障害を未然に防ぐ方法を突き詰め、障害の前触れであるアラームも見逃さずに対応することで、お客様に安心してサービスを利用して頂けるよう取り組んでいます。

そしてもし障害が発生してしまった場合でも、まずはお客様の為にはどのようにするのがベストか、やるべきこととその優先順位を考え、責任を持って行動することを心掛けています。障害を目の当たりにすると焦りや怖さ、不安があり、入社当初は上司や先輩方に頼りきりで何もできず、

自分に悔しさを覚えるばかりでした。現在もまだ上司や先輩方の力を借りながらではありますが、状況を把握した上で自分なりに対応を考え、行動できるようになりました。当たり前ではありませんが、押すボタンや抜くケーブル1つを間違っただけでもサービスが停止してしまい、会社の信用に関わる大事に至りかねない、責任を持った行動が大きく問われる現場であり、日々緊張感を持って仕事をしています。

また現場ではお客様の声を直接聞くことができる嬉しさもあります。我々の対応に対してお客様から御礼を言って頂いた時は、心から嬉しさを感じ、今後の仕事へと繋がります。

至らない点が多く反省の毎日ではありますが、早いものでもう3年目の私は、周りの上司、先輩方の良いところを真似しながらも、今後は自分のカラーを出して自分にしかできない仕事をしていきたいと考えています。衛星通信の強みを生かし、スカパーJSATにしかできないサービスを自信を持って提供するためにも、常に現状に満足すること無く、上を目指して突き進んでいきたいと思えます。■